

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	埼玉県	市町村名		大学名	
派遣日	令和3年7月14日(水曜日) 13:30~16:30 ※協議会実施要項を添付いたします。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <b>遠隔</b>				
派遣場所	Zoomによるオンラインでの実施				
アドバイザー氏名	山梨県甲府市立大國小学校 教諭 今澤 悌 先生				
相談者	埼玉県教育局義務教育指導課(令和3年度日本語指導研究協議会での講義)				
相談内容	○外国人の子どもたちへの日本語指導の実際 (文科省 JSL カリキュラム・日本語と教科の統合学習・授業づくりについて) ○学校への受け入れ体制 ○保護者対応				
派遣者からの指導助言内容	<p><b>【学校への受け入れ体制・保護者対応について】</b></p> <p>○外国人児童生徒を学級に受け入れることは、在籍学級の児童生徒にとっても多様な価値や文化を知り、成長できる大きなチャンスである。生きた国際化である。</p> <p>○新規で来日した外国人の子どもたちは、歴史的・社会的な状況、保護者の事情で日本に来日しており、自分の意志での来日ではないことを理解する必要がある。</p> <p>○学校からは、お願いに加えて、異文化・異言語の中で懸命に生活・学習している姿も伝える。</p> <p>○保護者から、保護者の状況や願い、家庭での言語の状況や学習環境の把握をする。</p> <p><b>【外国人の子どもたちへの日本語指導の実際】</b></p> <p>○学習活動を通して学び、考え、表現することで、「教科に使われる日本語」とともに「教科の力」が身に付いていく。</p> <p>○学校での多くの時間を在籍学級で生活するため、日本語指導では、在籍学級での学習に生きる指導をすることが大切である。</p> <p>○授業づくり「①目標の設定、②計画、学習活動、展開の構想、③支援の工夫」について</p> <p>①: 教科の目標を達成するためには、どんな日本語の力が必要かを考える。</p> <p>②: 在籍学級の授業に参加するために必要な、学習スキルや知識に焦点化した学習活動を取り入れる。</p> <p>③写真や紙芝居等を用いた理解支援やモデル文の提示等による表現支援等 ⇒日本語を教科学習の場面から切り離さずに学習する。教科の目標を達成するために日本語の表現モデル等を指導するとよい。</p> <p>○物語文などは、文と挿絵とを照らし合わせて示したり、一文ごとに示したりすることも効果的である。</p> <p>○在籍学級担任と、日本語指導担当とが連携することが大切である。在籍学級においては、授業の中で次のような支援が実践できる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉のユニバーサル・デザインを意識し、授業で使う言葉に配慮する。</li><li>・本時の目標に関係のない言葉の負荷を下げる。</li></ul>				

(様式3)

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 具体物や絵、図、表など、言葉以外の情報を豊富にする。</li><li>・ 大切な言葉、発問、キーワード等を板書やカードで視覚化する。</li><li>・ 個に合った課題や活動を準備する。(ワークシート、ペアワーク等)</li></ul> <p>○アンダーラインを引く、色を変えて提示することだけでも、言語のハードルを下げることにつながる。日本語力の課題のある児童生徒に優しい授業はすべての子どもにとっても優しい授業である。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○具体的な実践をもとに、丁寧で分かりやすい御指導をいただいた。受講者は、中国語での授業を体験したりアラビア語の教科書を見たりすることで、言語がわからない中で授業を受けることの苦痛な気持ちや不安を改めて実感した。日本語指導を必要とする児童に寄り添った指導、実態に応じた指導を引き続き実践していく。</p> <p>○本日御指導いただいたことを、日本語加配の先生方を含め、県内の学校に周知し、在籍学級を生きた学びの場となるようにする。</p> <p>○毎年100名を対象とした初歩的な日本語指導についての協議会を実施している。今後も継続して実施するとともに、来年度においても、文部科学省文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーの指導を受け、支援の充実を図っていきたい。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。